

2. 村土の利用目的に応じた 区分ごとの規模の目標 及びその地域別の概要

2-1. 村土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標

(1) 目標年次

計画の目標年次は平成22年とし、基準年次は平成11年とします。

(2) 人口・世帯数

村土の利用に関して基礎的な前提となる人口と一般世帯数については、平成22年において、人口は3,022人、世帯数は1,142世帯に達するものと想定します。

(3) 村土の利用区分

村土の利用区分は、農用地、森林、宅地等の地目別区分とします。

(4) 村土の利用区分ごとの規模の目標

村土の利用区分ごとの規模の目標については、利用区分別の村土の現況と将来の利用可能性、人口、産業構造などを勘案しつつ、利用区分別に必要な土地面積を予測し、土地利用の実態との総合的な調整を行い定めるものとします。

村土の利用の基本構想に基づく平成22年の利用区分ごとの規模の目標は、次頁の表に示すとおりです。

なお、数値については、今後の社会・経済動向のいかんにより、弾力的に理解されるべき性格のものとなっています。

表 村土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標

(単位 : ha、 %)

区分	平成6年	基準年次 (平成11年)	(平成19年)	目標年次 (平成22年)	構成比			
					平成6年	基準年次 (平成11年)	(平成19年)	目標年次 (平成22年)
農用地	5,930	5,770	5,770	5,770	10.1	9.8	9.8	9.8
農地	5,930	5,770	5,770	5,770	10.1	9.8	9.8	9.8
採草放牧地	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
森林	46,515	46,521	46,705	46,797	79.4	78.9	79.2	79.3
原野	939	939	906	897	1.6	1.6	1.5	1.5
水面・河川・水路	1,324	1,324	1,324	1,324	2.3	2.2	2.2	2.2
道路	848	863	902	908	1.4	1.5	1.5	1.5
宅地	191	190	195	198	0.3	0.3	0.3	0.3
住宅地	59	58	61	61	0.1	0.1	0.1	0.1
工業用地	4	6	7	7	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の宅地	128	126	127	130	0.2	0.2	0.2	0.2
その他	2,827	3,390	3,198	3,106	4.8	5.7	5.4	5.3
合計	58,574	58,997	59,000	59,000	100.0	100.0	100.0	100.0

2-2. 地域別の概要

(1) 地域別の区分

地域を区分するにあたっては、自然的・経済的・社会的諸条件を勘案して、次表に示す2区分とします。

地域別の範囲は、図1に示すとおりとします。

地域名	地区名
森林保全ゾーン	知来別の一部、小石の一部、豊里の一部、狩別の一部、浅茅野の一部、上猿払の全部
生活・生産ゾーン	知来別の一部、小石の一部、鬼志別東町の全部、鬼志別西町の全部、鬼志別南町の全部、鬼志別北町の全部、浜鬼志別の全部、芦野の全部、豊里の一部、狩別の一部、猿払の全部、浜猿払の全部、浅茅野の一部、浅茅野台地の全部

（2）地域別の概要

①森林保全ゾーン

当ゾーンは、大部分が村土の西側に位置する丘陵性山地に広がる森林地帯となっていることから、森林のもつ水源かん養、山地災害防止等の公益的機能の向上を図るために、治山施設等の整備を計画的に進めるとともに、これまで失われてきた森林資源の回復のため、森林の持つ天然更新力の向上を図る適正な森林施業を推進し、森林の管理水準の向上を図ります。

また、当ゾーンの森林地帯を源とする知来別川、鬼志別川、猿骨川、猿払川をはじめとする無数の河川は、オホーツク海に向かって流下しており、「イトウ」が棲息する水辺にもつながっていることから、貴重な水源として環境に配慮した河川改修など、適切な維持管理・保全による健全な水循環の確保に努め、水辺・水質の環境保全を図ります。

②生活・生産ゾーン

当ゾーンは村土の東側に位置し、オホーツク海に面しており、広大な酪農地帯を中心として、浜鬼志別、知来別、浜猿払の3つの漁港を有する、本村の基幹産業である農業と水産業における生産基盤の中心となっています。

また、各種の公共施設が立地する鬼志別を中心として、浜鬼志別、知来別、浜猿払の漁家集落や浅茅野台地、芦野等の農家集落など、大小11の集落地が点在する村民の生活の基盤にもなっています。

したがって、当ゾーンは生活と生産の場として位置付け、環境・生活基盤の整備、産業の振興を勘案しつつ、地域の特性や個性に応じた村土の有効的な土地利用の促進を図ります。

さらに、当ゾーンの海岸線の国道238号線は、宗谷圏において広域観光の役割を担う「オホーツク観光ライン」となっていることから、自然環境や景観との調和に配慮しつつ、豊かな観光資源の活用を図るものとします。